



12th March, 2016

今日は、いよいよ、オーストラリアで過ごす最後の日だった。ここでの 1 週間は本当にあっという間で、飛行機から降りて、真夏の太陽に出迎えられた日が、つい昨日のこのように感じる。

午前中は、各自のホームステイ先で一緒に過ごす最後の時を思い思いに楽しんだ。1 週間のお礼に日本食を振舞ったり、昨日学校で用意した手紙を渡したり、たった 1 週間という短い期間ではあったが、本当の家族として私たちを迎え入れてくれたホストファミリーと出会えたことが、この研修の中で 1 つの大きな収穫だった。

そして、午後 1 時に学校に集合し、いよいよお別れの時となった。仲井先生が、「オーストラリアで出会った人々は、みんな優しくとてもいい人たちでした。そして、そんな人たちに巡り会えて私たちは幸せでした。」と挨拶をした。いよいよ、空港へ向けて、バスが出発しなければならない時間になった。笑顔で手を振る人、涙を流す人、ハグをかわして再会を約束する人。皆の心の中はホストファミリーへの感謝の気持ちでいっぱいだった。



ブリスベンからシドニーへ国内線で移動し、いよいよ出国、日本への帰路へつく。日本への国際線乗り場では、アナウンスや周りから聞こえてくる会話は日本語。まだ、シドニーを出ていないのになんだか気持ちだけ日本に帰ってきたような気分になった。「また、絶対戻ってきたい。」と強い志を抱き、オーストラリアの景色を目に焼き付けながら、日本への空の旅に出る。





13th March, 2016

機内で目を覚ますと、飛行機はちょうど日本の上空を飛んでいるところだった。朝日はまだ昇っておらず、窓の外は真っ暗だ。羽田空港に着き、入国審査を経て富山空港行きの飛行機に乗り継いだ。

飛行機の窓から見えるのは、雄大な山々。そして、ひときわ大きな山が日本が誇る山、富士山だった。出発の時に私たちを力強く送り出してくれた富士山が、到着の時も私たちを温かく迎え入れてくれた。「ああ、日本に帰ってきたんだな。」と思った。飛行機が着陸態勢に入り、どんどん街が大きくなってゆく。立山が白く美しく輝き、富山では雪が降ったのか。と夏から冬へと季節を超えるということを実感した。中部高校が見えたあとすぐに、飛行機は富山空港に着陸した。



朝日の中に浮かび上がる富士山



飛行機から見た富山中部高校

到着ロビーを出ると、坪池校長先生はじめたくさんの先生方、そして家族の拍手と「おかえりなさい」に出迎えられた。解団式では、団長の仲井先生が「全員無事で帰ってこられたこと、そして支えてくださった方々に感謝します。」と挨拶し、続いて王生春香さんが生徒代表として「オーストラリアでの、ホームステイや様々な活動を通して自己発信力、そして自己表現力を身につけられました。」と報告した。

いま、オーストラリア研修の9日間を振り返ると、あっという間ではあったが1日1日は非常に充実しており、この研修を通して1回りも2回りも成長することができたと感じる。この研修が無事大成功という形で終わることがゴールではなく、ここからがまた新たなスタートとして、各自の夢の実現に向けて、この研修で学んだことを活かし頑張っていきたいと思う。

